

# 炎ゆる情熱☆ 山口浩久通信

vol.2  
(2008新春号)  
2008.1.1発行



## はじめに

月日が経つのは早いもので、村議会議員として半年が過ぎます。この半年間で何が出来たのか？と自分自身に問い質せば、議会以外の様々な会合などに参加し、住民の皆さんの様々な意見を聞くことが出来たのがまず一番の収穫だと思っています。子供達からご年配の方々までの多種多様な能力をうまく連携し、情報発信し、共有できれば更に素晴らしい星野村になると実感しました。昨日より今日、今日より明日、前向きに頑張っていきたいと思います！

## ”活かす力”を一緒に考えましょう

今までと同じようにやっていたら何とかなる時代は終わりました。過去の延長線上でものを考えるのではなく、斬新なもののお考え方が必要になって来ました。かといって今まで世の中に出回っていないなかった物事を一から考える必要はないと私は思います。成功している事例を自分の環境に合わせて一捻りする、あるいは、昔の物事を今風にアレンジすると

素晴らしいモノが出来上がると思っています。

オーストリア出身の経済学者・シュンペーターは、

「イノベーション(技術革新)は、情報と情報とのぶつかり合いから生まれる。それも遠い情報のぶつかり合いの方が面白いモノが生まれる。」と言っています。

例えば、北海道の人と沖縄の人が話をする、子供と曾おばあちゃんが話をする、面白い話題になるかもしれません。

一〇月末に開催された全国過疎シンポジウムの講演の中でも話された北と南の県同士が、余っているものを物々交換して成功している事例もそれに該当すると思います。

常日頃私は、「星野村には経営資源がいつぱいある！」と言っています。その資源や素材をどう活かしていくのか？すなわち“活かす力”がカギを握ります。

人と会う事・話をする事が一番です。できれば今まで会った事が無い人とも。私も毎日一人でも多くの方との会話を求めて行動したいと思っています。



## 村民の健康が星野村のカギを握る

高齢化社会を迎え、誰しも健康への不安を抱えています。生活習慣病が若年層にも増えている今日、日頃の健康管理は、星野村の将来を考える上で重要となってきます。

私がお世話になっている京都の大病院グループの創業者(院長先生)が、講演の中で長年、健康維持には“三つのかく”が必要であると話をされています。

先生いわく、健康維持の“三つのかく”とは、

一つ目、“汗を掻く”つまり適度な運動をする事。

二つ目、“物を書く”つまり頭を使い、手を使う事。

そして三つ目、“恥を掻く”、恥は一人では掻けません、必ず相手が必要です。つまり人と会って話をする事。

以上の三つを頭の片隅に入れて生活してみたいかがでしょうか。

## 星野村は今、合併が必要なのでしょうか？

私は、一月五日に開催された第一三回臨時会の八女市、黒木町、立花町、矢部村、及び星野村の一市二町二村の法定合併協議会設置議案に対して反対の立場をとりました。

理由は、先んじて合併をした周りの町村が



西日本新聞(朝刊)  
2007.11.6の記事より

どういう状態になっているのかを、まずじっくりと検証すべきで、その検証をせずに急いで合併をしないではいけません。なののか？というのが率直な気持ちだからです。又、全国には合併せずに自立の道を選択した自治体があるのに、なぜ星野村が同様な道を歩めないのか？もし歩むとするならば今後どれだけ村民に負担をお願いしなくてはならないのか？の説明が十分なされていないと感じるからです。

それ以上に疑問や不満を持たれている時こそ懇切丁寧な対話が必要です。

一月五日の法定合併協議会設置議案は、八女市、黒木町、立花町、矢部村、及び星野村のいずれの議会でも可決し、一月三日から法定合併協議会がスタートしました。合併に向けて様々な項目で協議がなされています。頭に入れて頂きたいのは、「まだ市町村合併の決定ではない！」という事です。

とにかく合併するにしても、合併しないにしても、星野村が、他の市町村との競争に負けないような活力ある地域になる為に村民挙げての施策が急務です。

身近に出来る事を、お互いに楽しく継続していきましょう。

**星野村の事をチュウ心に考え！  
目標に向かってチュウ実に！  
日々の健康にチュウ意して！**



一〇月〜一二月の主な活動

一〇・二 全員協議会 (市町村合併問題)

一〇・三 全員協議会 (市町村合併問題)

一〇・六 しぜん幼稚園運動会

一〇・九 秋の戦没者慰霊祭

一〇・一二 八女郡町村会セミナー

一〇・一八 広報委員会

一〇・二〇 星野中学校校内研究会

一〇・二〇 交流ふれあいトンネルボランティア作業

一〇・二四 広報委員会

一〇・二五 全員協議会 (市町村合併問題)

一〇・二六 全国過疎問題シンポジウム

一〇・二七 功労者表彰に係る諮問

一一・一 重野正敏政経セミナー

一一・一 市町村合併問題調査特別委員会

一一・一 広報委員会

一一・五 第一三回臨時会 (法定合併協議会設置議案審議)

一一・一〇 室山熊野神社御神幸行事

一一・一一 星のまつり (海老井副知事来村記念植樹)

一一・一五 星野中学校校内研究会

一一・二一 星野中学校校内研究会

一一・二三 子ども図書まつり

一一・二四 星光園五〇周年記念式典

一一・二六 広報研修会 (福岡県自治会館)

一二・三 第一回法定合併協議会傍聴（八女市）

市町村合併問題調査特別委員会

（第一回法定合併協議会内容）

一二・六 人権・同和教育実践交流会

一二・一二 第一四回定例会（一般質問）

一二・一三 第一四回定例会（補正予算など）

全員協議会（新池の山荘の進捗状況説明など）

一二・二〇 全員協議会（第二回法定合併協議会内容）

一二・二五 第二回法定合併協議会傍聴（矢部村）

## 「ゆとり教育の見直しによる今後の教育方針及び児童生徒の心身の健康対策について」

第一四回村議会定例会の初日・十二月二日、一般質問（六議員九件）が行われ、私は、「ゆとり教育の見直しによる今後の教育方針、及び児童生徒の心身の健康対策について」を栗原教育長に答弁を求めました。

（質問の趣旨）

星野村の教育環境を整え、将来の素晴らしき人材づくり、生きる知恵の育成こそ星野村の施策の中核に掲げなくてはいけない！という思いでの質問をしました。

（質問内容）

（１）ゆとり教育の見直しによる今後の教育方針について

①全国統一学力テストの結果を踏まえて今後の小中学校の対策はどうするのか？

②ゆとり教育から教科書重視教育への転換によって小中学校の授業内容はどう変わるのか？

③これまで総合学習を取り入れた、所謂ゆとり教育の検証はどうされるのか？

④総合学習の時間の減少に伴う対応はどうされるのか？

（２）教育を進める上での生徒の心身の健康対策について

①心身の病気を抱えた児童生徒の現状は把握されているのか？また、食事指導を始め、その対応はどうされているのか？

②食育についての村としての対応はどうされているのか？

生徒の学力の到達度をグリーンとアップさせるには、『やるき（集中力）×授業の質×学習の時間』を上げる事だと思います。

ポイントには生徒の“やる気”です！

生徒各個人に、どのようにして“やる気”を持たせるのか？、

その為に生徒へ常に情熱をもって細やかな心配りが出来る、又はその素質がある有能な先生を星野村でどう育てるのか、有能な先生にどうすれば星野村へ来て頂くか、にかかっています。

又、先生や学校ばかりに負担をかけるのではなく、学校・家庭・地域の３つが各々の強みを発揮し、又、弱点を補い、うまく連携し合える星野村でなくてはなりません。

## 子供は光る原石

星野村はどんな村で、他と比較してどんな素晴らしい場所や人やモノ等があるのかを感じてもらう、そして地域の人達と語り合い情報を共有すれば、何か付加価値の高い（儲かる）ヒントが出て来そうです。

九月の定例会での一般質問の中でも星野村オリジナル教育の必要性を提案しましたが、今回ゆとり教育の見直しによって総合学習の時間が少なくなるのであれば、土曜日を利用した地域密着型の総合学習の時間が星野村にあつて良いのではないかと思います。

良い時には競い合えるライバルであり、悩める時には心の底から相談に乗ってくれる、そんな友達をつくれるようにする教育環境づくりが、学校にも家庭にも地域にも求められ

ています。

更に私は、友達同志だけでなく、先輩後輩といった良い意味での子供達の「タテ社会づくり」も大切だと考えています。学童保育にも絡んできますが、学校以外で、例えば日常小学校の上級生が下級生の勉強などをみてやったり、中学生が小学校の上級生の勉強などをみてやったり、高校生が中学生の勉強などをみてやったり、といった機会や場所を与えれば、学力の底上げにもつながるし団結力も生まれて来ます。

「教える」という事は、「学ぶ」という事です。

人に教える事で、自分の理解力も深まりますし、どうやったらうまく人に伝えられるのか、が分かって来ます。

そして先生役の教えてくれた生徒には、何らかの報酬をあげるという事も提案しました。村内には今年の春、四十以上の『まちの駅』が一斉にスタートしました。そこには、星野村の沢山の特産品やサービスがあります。生徒への報酬として、例えば、お茶やお菓子や味噌や入浴券などから自由に選べるようにすれば、働く事の素晴らしさを生徒達に学んでもらえ、且つ星野村内でモノも動くようになるのではないのでしょうか？

先生に時間の余裕がなければ周りがカバーする、そんな星野村でありたいものです。

## 食事のありがたさ・大切さを認識させる

お金され出せば何でも買う事が出来る時代です。食べ物の大切さ、地元の食材の良さ、生産者・加工製造する人達の苦労などを学校で学んでも、周りにはお金で買えるお菓子やその他の食品が氾濫しています。ここでも家庭や地域との連携が必要になってきます。日頃から食に対する意識を地域をあげて子供達に持たせる努力が欠かせません。

地域の将来を担ってくれる子供達には心身共に健やかに、そして「これだけは人には負けない！」という得意分野を身につけてもらいたいものです。

九月から定期的に星野中学校の校内研究会において授業参観をさせてもらっています。今後もできる限り様々な教育の現場に参加したいと思っています。

尚、私の一般質問に対する答弁内容については次回の「議会だより」に掲載される予定です。そちらを是非お読み下さい。

## ヤングレイン

定例会や臨時会・市町村合併問題の協議など半年間で盛りだくさんの課題に直面してきました。まだまだ勉強不足の点は否めませんが、更に勉強し、議会や地域の活性化に寄与

したいと思います。

二〇〇八年は、干支がネズミへと最初に戻りました。ネズミは多産の動物ですので少子化時代に打ってつけの干支だと思えます。

この星野村で安心して子供を生み育てることが出来る環境づくりに力を注がねばなりません。又、星野村の農林産物などの素晴らしさが、世界へネズミ算式に広がる様に率先してPRしたいと思えます。

二〇〇八年が、皆さんにとりまして素晴らしい年になりますように祈念致します。

観光立村を目指し、日本一のおもてなしの心でお客様を迎えたい！

そんな思いで、元気なあいさつ運動・美化運動・健康づくり運動に率先して励みます。

山口浩久へのご意見・ご質問などをお気軽に  
お寄せ下さい。(電話 五二二二二二)

『小さな一歩・今日の一歩が

明日の星野村を創る!』

村議会議員 山口浩久のホームページ

<http://www.h-yamaguchi.com/>

E-mail: [info@h-yamaguchi.com](mailto:info@h-yamaguchi.com)

